

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293500060		
法人名	有限会社シーシー商会		
事業所名	グループホームつくしの里		
所在地	千葉県八街市榎戸385-1		
自己評価作成日	平成23年 11月 18日	評価結果市町村受理日	平成24年 2月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園王町1107-7
訪問調査日	平成23年 12月 2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「その人らしさ」をとり戻せるよう、一人ひとりを一人の人間として耳を傾ける事を事業所として力を入れて取り組んでいます。</li> <li>・利用者の健康状態を常に把握し、早めの受診を心掛けて通院はすべて無料で提供しています。</li> <li>・年間行事として、お花見・夏祭り・敬老の日・コスモス見学会・外食など</li> <li>・畑の中の静かな環境にあるホームである。</li> <li>・地元の野菜や地域の青果市場から食材を取り寄せ、さらに空き地に野菜を作っている。</li> <li>・管理者と職員が共に、入居者を中心に据えて、事業所として力を入れている。「同じ目線」「笑顔」を大切にケア にあっている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>1ユニットの良さを生かし、職員は入居者が家族の一員としてゆったりとした生活が送れるよう、入居者一人ひとりに目線を合わせた支援に努めている。食事の献立は昼食を重視しており、地元食材を中心とした家庭料理を作り、楽しい食事になるように工夫している。また、病院への通院介助は原則としてホームで行い、家族の負担を軽減するようにしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付くところに掲示し職員と共有するため、入居者との関わりの中かで理念を生かした介護をしている。	理念である「安心と尊厳のある生活を支援する」を実践するうえで「入居者一人ひとりに視線を合わせ、気配り、目配りで介護する」ことを大切にしている。いろいろな場所に掲示し、いつでも目に入るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	消防署による消火避難訓練の際、近隣に声掛け連絡している。住民のボランティアにて踊りを披露して頂いてる。	ホーム開設後2年ということでもあり、近隣住民との交流はまだ挨拶をする程度である。敷地内に同法人が経営する高齢者住宅があり、行事に参加したり日常的に交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で暮らす認知症の人や家族に認知症とは…について、友人や地域の人々に向け活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、現在の利用者やサービス状況等について、報告や話し合いを行い地域の交流と情報交換できるようにしている。	今年度の開催は2回である。地域包括支援センター、区長、民生委員などの参加があり、活発な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課に定期的に出向き、パンフレットをカウンターに置かせて頂き、厚生課の職員の方と情報交換をするなど協力関係を築いている。生活保護者の受け入れもしている。	定期的に担当窓口を訪問して、情報を得ている。また、運営推進会議には地域包括支援センターの出席があり、助言を得たり、連携を密にするようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受けた職員が全員に説明している、衣服を工夫し、つなぎ服を使用しない。	身体拘束をしない介護を目指し、契約書にも明記して、徹底を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、虐待防止について研修を受け職員全員に伝え、虐待が見過ごされないよう注意を払い防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、理解はしているが現、在籍者には、対象となる人がいない。必要かどうかを見極めるためにも制度ついて学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約内容を説明し、その後、疑問や不安等を伺い安心して利用いただけるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置している。又、面会時には日頃の生活状況を管理者、職員が家族に話している。	意見が言いやすい雰囲気をつくるよう心がけて、聞きとるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員の意見や提案を共有し、話し合い反映させている。	伝達事項等は職員の休憩時を利用してすまさせているため、特別な意見交換の場はない。	ホームの課題や改善策について、管理者、職員で共有、検討する機会をつくることが望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境をつくり研修等に参加し、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は実践者研修、管理者研修等を受ける機会の確保など、働きながらのスキルアップを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員がケアマネ協議会開催をする勉強会、キャラバンメイトの活動を通じてサービスの質を向上させている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームに慣れていく段階で本人の不安な様子を観察、声掛けをしながら些細な言葉や要望に傾聴し、安心した生活が築けるよう信頼関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望をよく話し合い、傾聴しながら安心して、利用者様に入所していただけるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いを把握し希望に添えるよう支援している。健康状態や家族の要望も取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守りの中で出来ることは、ご自分でいただき、困難なところを支援し反対に昔話や経験からのアドバイス受けお互いに支えあう。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に面会に来ていただいたり一緒にイベントに参加していただくなど、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく親戚や友人、隣人にも面会に見えて頂き、電話の取り次ぎや外出、外泊などまた夜間の面会も歓迎している。	これまでお付き合いのあった人達の来訪を喜んで受け入れているなど、関係性の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係を把握しており、それぞれにあった対応と、利用者職員が毎日、ラジオ体操、レクリエーションをし、会話を広げられるよう支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院中になった為、サービス利用終了した後も、今までの関係を大切にして頂き、食材(野菜)を届けてくださっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望や訴えは常に本人の表情を見守りながら傾聴し、把握している。又、個別に対応している。困難な場合、医師や家族関係者に相談し、検討している。	入居者の表情を注意深く見守るようにしている。把握した情報は、職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にヒヤリングシートに細かく添って本人、ご家族等から伺い、個人ファイルに綴じ職員が見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活、健康管理に努め、必要に応じてケアカンファレンスを開き現状を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望む生活ができるよう、本人や家族の希望を聞きながら個人計画を立てている。	日々状態が変化する入居者については、介護計画も臨機応変に状況把握したものを追加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子など細かく記録している。情報交換のための話し合いや、管理者への報告を行っている。必要があれば計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を把握し入院時に環境の変化からか、病院内の食事をとらない人には、施設側から食事の介助の支援をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	八街消防署より消火通報・避難訓練等協力を受け、支援している。また、ボランティアによるイベントを開催している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診及往診は、必要に応じて受診、往診できるような体制を取っている。本人や家族の要望を大切に、必要に応じて家族に同行して頂き、医師の説明を受けている。	かかりつけ医への送迎は職員対応としており、家族の負担軽減を図っている。本年度から2週間に1度、協力医が訪問診療に来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護支援専門員は、介護福祉士の資格があり経験豊富で、日常的に問題が起きた時相談し利用者が適切に受診できるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを、退院時には看護サマリーにて互いに情報交換をしている。又、状況に応じてご家族、医師、ソーシャルワーカーに相談しながら退院できるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師からの情報をもとに本人及びご家族と相談し方針を決めている。医師、ご家族、施設の連絡を密に取りあって方針を共有している。	現在まで看取りの経験はないが、医師や家族と連携を取りながら、方向を決めていくつもりである。段階的に、本人や家族の意向を確認し、職員の研修も重ねて準備していくとよいと思われる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の既往症を把握し、医師に緊急時に備えての対応の仕方を確認し、職員に受診記録を通じ伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防員の指導により避難訓練、消火訓練、総合訓練を実施、緊急時に慌てない様通報マニュアルを掲示し、職員がいつでも対応できる体制を整えている。	消防署員参加のもと、年2回の訓練は行われているが、先の大地震に於いては冷静に行動できない面もあった。	限られた人数の職員では対応しきれない場合も想定される。隣接の高齢者専用賃貸住宅との協力体制だけでなく、地域との連携体制の構築を期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	無理強いせず、本人の要望を傾聴しながら対応している。トイレの声掛けは人前で大声で言わず、耳元で促したり、耳の遠い人には人前を離れてさりげなく誘導する。	言葉かけは、入居者一人ひとり合わせ、プライバシーにも配慮するように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力にあわせ、わかり易く説明し、返事のしやすい質問を心がけている。声が出ない利用者には筆談やジェスチャーでコミュニケーションを取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活スケジュールは決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、希望に添い外出や買い物に同行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞き本人らしい身だしなみを支援している。季節に合った服装ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の農家や青果市場より新鮮な野菜を取り寄せ、利用者のできる事、下膳・茶碗拭き等を、職員と一緒にしている。家庭的な料理を手作りで提供し、誕生日にはケーキでお祝している。	入居者の出来る事については、職員と一緒に楽しみながら参加している。外食で気分を変える機会を設けたり、食事を楽しむようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を記録し、摂取量の低下が見られる方にはボカリ、お茶を積極的に提供している。本人の摂取能力に応じた食種(刻み・お粥など)で提供し、見守り、介助をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に合わせ、歯磨きやうがい等を、支援をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄記録を活用し排泄パターンを把握する事で必要な方には声掛け・誘導・介助にてトイレでの排泄ができるよう支援している。入院されオムツになった方も、早めにリハパンに戻しトイレでの排泄ができるようになった。	一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけをする他、表情や様子を見守り、無理せずタイミングを見て、時間をかけて自立への支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録にて定期的な排便があるかを確認し、運動水分補給への声かけなど行っている。慢性の便秘の方は、医師に相談し、便秘薬を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴曜日は決まっているが、本人の体調に応じて柔軟に対応している。拒否のある場合、受容する事で気分が変わり入浴して頂ける事もある。	入浴介助の際は、入居者が不安感を持たないように話しかけ、リラックスしてもらえるようにしている。決してせかさず、入浴する気持ち良さを体感してもらうよう努めている。	人員配置もあり、なかなか難しいことではあるが、入浴の時間帯や回数について、出来る限り入居者の希望に応じられるような工夫が期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間を把握し、一人ひとりの状況に応じて、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録・服薬情報にて、一人ひとりの内容を理解し常に症状や急変に気を配りながら、間違いのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日めくりカレンダーを毎日かけ変えて下さる方、スタッフと車で外出し(買い物など)、食器洗い洗濯物たたみを積極的に手伝って下さいます。一人ひとりの力を活かし支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添って買い物や銀行などに付き添ったり、ご家族との外出ができるよう支援している。 桜の花見、外食、コスモス畑の見学など、支援に努めています。	希望に応じて、職員が同行して買い物などに行っている。天気の良い日は、庭で日光浴をしたり、近隣に散歩に出ている。外出する事が入居者と地域の人達との交流に繋がる一歩になると考えている。花見や外食を行事に取り入れて、日常生活にメリハリをつけるよう努めている。	

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所に一部の人のお金を預かっているが、必要があればスタッフが同行し、買い物・銀行のやり取りができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚お友達からの電話の取り次ぎ、手紙の代筆や投函を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で年間を通して、季節感を採り入れた飾りつけを利用者と一緒に掲示している。トイレ・浴室は分るように明記している。	平屋建てで開放感のある、明るい共用空間である。大き目のソファが置かれ、くつろげる雰囲気がある。過剰な装飾がなく、季節の飾りが効果的に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの通路側にソファを設置し、くつろぎや気のあった人との談話、利用者が横になったりする場として、共用している。庭にイスを置いてくつろげる場を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談して、使い慣れたタンス・テレビ等を使って、本人が居心地良く過ごせる様に配慮している。	居室は一人ひとり、好みの家具や品を入れて居心地のよい場所となるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内・トイレ・浴室には手すりが設置され、場所がわかる様に名札をつけている。又、利用者がトイレ使用中と名札をつけている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所